

触がなく、生き生きと育っていない。

- ② 放任的な養育態度のため、自我がゆがめられ、引っ込み思案なところが多く、耐性の弱い子供として育っている。
- ③ 両親が共稼ぎのため、家で過ごすことが多く、社会経験の不足のまま成長したことが、人みしりを多くしている。
- ④ 友人が少なく、集団参加への技術が未熟で集団への適応に苦労している。
- ⑤ 1年生の時、会話したことを友人に笑われた心の痛手が作用し、しゃべらないことで自分自身を防衛している。

以上のことから、親の養育態度のまずさが、本児の自我を未熟なものにし、集団の中で不安や緊張を感じ、緘黙状態を引き起こしているものと考えられる。

#### (6). 指導方針

- ① 遊戯療法によって学校生活に適応できるように援助する。
  - ア、遊びを受容し、本人の興味を引き出しながら、行動の拡大化と会話の機会をつくる。
  - イ、表現活動を助長し、発語の効用や感情表出の喜びを身につけさせる。
- ② 親（特に父親）とのカウンセリングを通して、子供との接し方を改善し社会性の育成につとめる。
  - ア、家人との会話の機会を多くもつ。
  - イ、子供との接し方を改善する。
    - ・ほめたり、励ましたりする。
    - ・しゃべらないことへの圧力をさけ、安心して生活させる。
    - ・多くの子供と遊ばせる。
- ③ 学級担任との連携を図り、集団活動への適応をはからせるための協力を依頼する。（センターと学級担任との情報交換を密にする。）